

「レファレンススキルの磨き方 調べものの専門家になるために」

“調べる” の ポテンシャル

～問題解決力と生産力を手に入れる～

2024年 3月1日 (金)

株式会社ズノー
知的生産計画室
辞書と事典の資料室

執行役員
TV/マーケ・リサーチャー
室長

喜多あおい

知

リサーチャーとは クライアントのスイッチ (納得・説得・発想 etc…) を押す仕事

⇒ 情報のチカラで、刺激を発信
化学反応を誘発

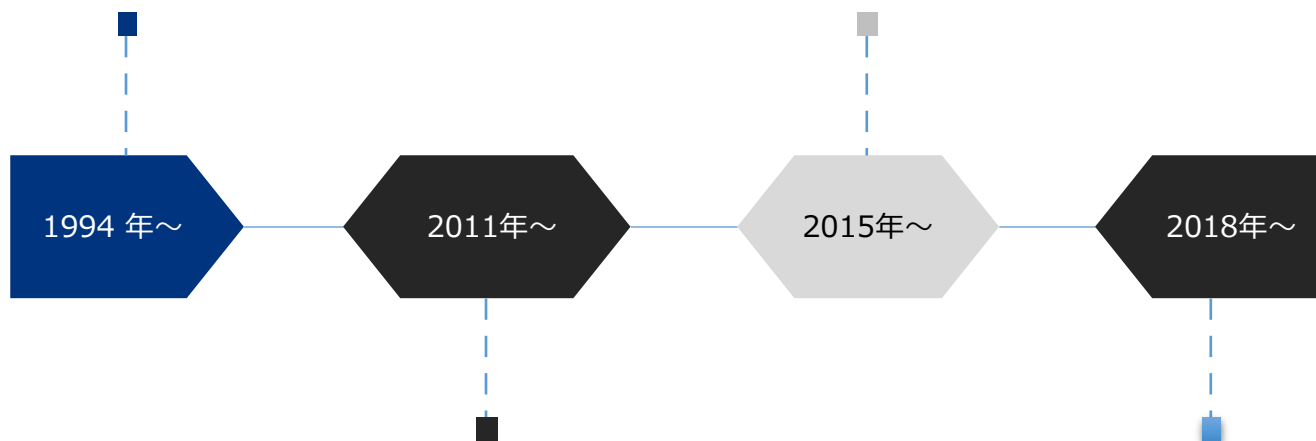


フェーズ変遷

クライアントニーズと時代

調べる

分析する



語る・教える

マッチング

① 調べもののマトリクス@KITA

答えがある

自分のため

誰かのため

答えがない

② 調べものシーン (≡ レファレンス)

「知的生産計画室」

未来に対する設計を一切しないということが、
未来に対応する唯一の道だろうと思う

@梅棹忠夫

始まりはいつも、「こんなこと、相談できますか…？」

クライアントニーズの多様性が財産。

変容できるのは「受け身」の強味。

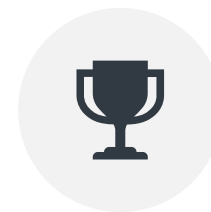
これからも、時代が次のフェーズを
創り出してくれる。



情報・報道



ドラマ・映画・漫画



ドキュメンタリー・教育



企業マーケティング



アカデミー・スクール



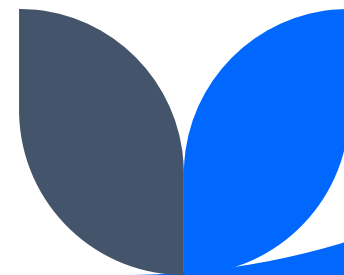
著作・取材

③調べもの 手法ジャンル

- トピックスリサーチ
- リアリティーリサーチ
- アカデミックリサーチ
- 考証・裏取りリサーチ
- パーソナルリサーチ
- コンプライアンスリサーチ
- マーケティングリサーチ
(定量・定性・デプス etc…)
- フィーリングリサーチ
- マッチングリサーチ
- 海外リサーチ
- 写真・映像・動画リサーチ

戦略構築の前に「**把握**」

《目的を的確に把握していますか？》

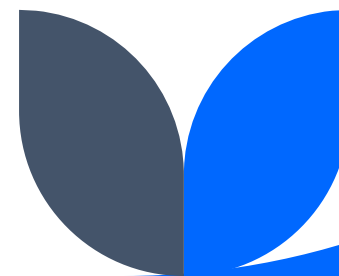


初手は… 網羅

初手でストライク・ジャストは狙わない
まずはもよう眺め 全体像把握から

⇒ **【無】**になれない人には、限界がある

⇒ 一番のロス**は、【既知・知識】**が招く、思い込みと誤認



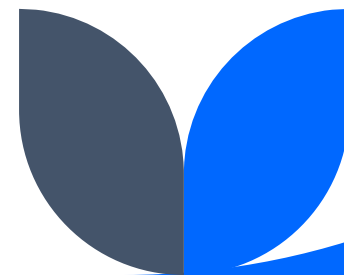
調べものの **コツ** @KITA

- いったん**真っ白**になってスタート
- **出口**からアプローチ
- **正解**は一つではない
- 求めるは**最適解**
- **アップデート**チェック



5つのソース と 図書館

- ①書籍 タイトル・目次・著者・前書き・後書き・奥付
- ②新聞 一覧する・比較する・継続する・時空を遡る
- ③雑誌 シャワーのように浴びる・全部見る・選ぶ
- ④インターネット・SNS **レコメンドを操る**・画像の力
- ⑤対人取材 スケールクエスチョン・感謝

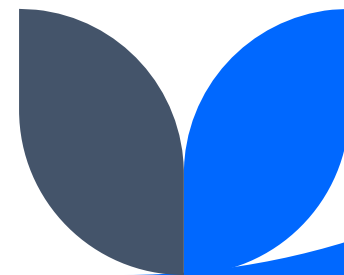


言葉/キーワードが成果を決める

Ex:なのに とりあえず
独身 vs 単身

掛け算する前に、シンプルワード

SNS検索を味方に ヤバい、エモい⇒ 今は？



いつか来る アウトプットのための インプットライフ

固有名詞で会話する
フラッシュ記憶術
感嘆詞に置き換える

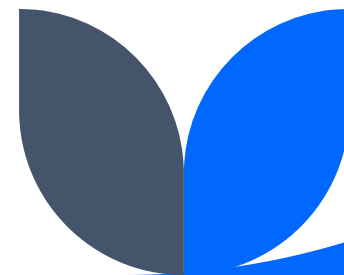


ひらめき を支えるソース

(連想)

いくつ持っていますか？
ルーティンを作っていますか？

定点観測の威力
読む のは、ナンセンス
作るべきは、脳の中の“ひきだし”



オリジナリティを生むための思考・考察術

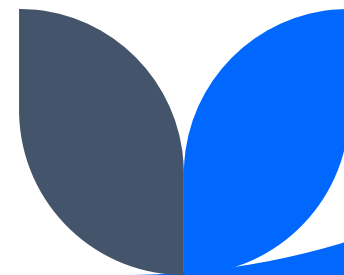
- ◇ガジェットやプラットフォームの開拓
- ◇アナログとデジタルの ハイブリットリサーチ
- ◇レコメンド 徹底活用
- ◇定点観測スポット を持つ

⇒ 図書館の狙い目 勝機!?



情報を扱うプロの**3原則**

- ① 出典明記と原典主義
- ② 複数ソース主義
- ③ アフターイメージ



辞書と事典の資料室 @Jimbocho



※建替え工事のため、一時閉鎖。 **移転先、模索中。**

蔵書は「**辞書・事典・図鑑**」のみ。
現在、**蔵書5000余冊（開架3000冊）**
いずれも、仕事で利用した辞書・事典・図鑑。

対象書籍の定義は「**索引**」があること。

